

The TOREI logo is displayed in a dark blue, bold, sans-serif font. The letter 'O' is replaced by a circular icon containing a stylized white bird or wing shape. The logo is positioned within a light blue circular area that overlaps with a larger, semi-transparent light blue circle on the left and a light green circle at the bottom.

TOREI

環境活動レポート

2015

CONTENTS

TOP MESSAGE	2
環境方針	3
会社概要 / 取扱主要製品	4
エコアクション21対象範囲	5
環境マネジメント推進体制	6
環境負荷の実績（2014年度）	7
環境負荷の実績（経年変化）	8
環境活動計画の取組結果と評価	9
工場及び関連設備における取組	10
冷凍冷蔵設備の取組・管理	11
食品リサイクルの取組	12
その他の取組	13
環境関連法令の順守状況の確認及び評価の結果 / 緊急事態対応	14
環境コミュニケーション / CSR活動	15
中長期目標の達成状況 / 代表者による全体評価と見直しの結果	16
資源の持続的利用への取組	17

編集方針 環境活動レポート2015 ご報告にあたり

TOREIでは、2006年度を「環境への取組元年」と位置付け、具体的な数値目標を定め、環境負荷低減への取り組みを開始し、環境マネジメント体制を構築。2007年に「エコアクション21」認証を取得しました。活動開始から8年が経過し、環境レポートの発行も9回目を迎えました。本書は、エコアクション21の認証範囲である東洋冷蔵株式会社及び関係会社2社の2014年度の取り組み・成果を中心に、ステークホルダーの皆様特に知っていただきたいTOREIグループとしての環境関連の活動事例や取組について、記載しています。本書を通じ、TOREIの環境姿勢に、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

報告対象範囲	TOREI 国内全事業所及び関係会社2社	(※ 対象事業所詳細はP4に記載) (※ 一部、エコアクション21認証取得範囲外組織の活動を含む)
報告対象期間	2014年4月1日～2015年3月31日	(※ 部署名等は2015年度現在) (※ 一部、2015年4月以降の情報を含む)
対象活動範囲	水産物・農産物・畜産物・酪農製品・飼料及び化成品の仕入れ、販売並びに開発、加工・製造、保管、物流	
参考ガイドライン	エコアクション21 食品関連事業者向けガイドライン	2009年度版
作成担当部署	東洋冷蔵株式会社 CSR・環境推進室	(TEL: 03-5620-3200 / FAX: 03-5620-3300)

水産資源の持続的利用を通じて、豊かな社会の実現に努めるとともに、地球環境の維持に貢献し続ける企業を目指す。

事業推進と CSR 活動

TOREI は、1971 年に水産物の取扱いをはじめ、今年で 44 年目を迎えました。

創業以来、鮪・鰹・エビ・鮭・鱈を中心に、世界の海から日本の食卓に多彩な水産物・水産加工品お届けする総合水産商社として歩んできました。

地球上では、さまざまな生物がバランスを保ちながら、多種多様な生態系を形成することで、我々が恵みを受けており、生物多様性への配慮や資源管理の取組は、持続可能な社会の形成と発展に欠かせません。

異常気象や温暖化をはじめとする地球規模での環境問題は、水産資源を取り扱っている企業としても心配な問題であり、今後も「地球環境に配慮しない企業は存続しえない」との認識に立ち、積極的、誠実に事業活動を通じた取組を推進してまいります。

安心・安全

安心・安全な水産物を安定的にお届けするために、TOREI では、原料調達段階である水産物の漁獲から加工・流通を経て、お客様にお届けするまでの一貫したトレーサビリティの構築に取り組んでいます。国内における超低温物流、ロット毎の品質管理といった、それぞれの商品の漁獲方法や商品の性質等に応じた管理を徹底しています。

また、商品の情報を一元管理し、迅速かつ的確な商品情報の提供に努めています。

環境への取組

2007 年のエコアクション 21 認証取得を契機に、全社の体制を整備し、環境負荷の把握を開始。全従業員が、自らの業務内容に応じた環境活動に取り組むことで、活動を推進しています。

活動開始当初は、従来の業務や運用の見直し、設備更新等により大幅な負荷削減が達成できていましたが、全社への水平展開と活動の定着が見られたことにより、近年は総量での削減目標達成が困難になってきていました。そこで、2010 年からは、省エネ法の改正に合わせ、原単位あたりの負荷削減を新たに目標に追加し、活動を推進しています。生産数量や事業所規模の単位あたりの負荷量を把握することで、単純な負荷削減だけでなく、業務・作業の効率化の 1 つの指標として活用することで、活動にも広がりが出てきたと感じています。

照明の LED 化や設備更新時のトップランナーの採用等、設備更新時には、省エネ型機器を導入しています。主要なエネルギー（電力）使用設備である超低温冷蔵庫の冷凍機には、現在、主にフロンを使用しており、自然冷媒冷凍機への転換については、中長期的な重要課題として取り組んでまいります。

環境規程の理念に基づき、環境経営に関する方針を定めています。

【環境への取組の基本理念】

東洋冷蔵株式会社は、地球環境に配慮しない企業は存続しえないとの認識に立ち、『企業活動のあらゆる面において地球環境の保全に努め、持続可能な発展を目指す』ことを基本理念とする。

【企業活動の範囲】

当社は、生鮮食品・加工食品などの輸入・製造・加工・販売を行っていることをふまえ、以下の方針に基づき環境管理を行う。

1. 当社の活動、商品、サービスに係る環境側面を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
2. 当社の活動、商品、サービスの環境側面に係る法規、規制、協定等を順守するために自主基準を設け管理する。
3. 当社の活動、商品、サービスに係る著しい環境側面のうち、以下の項目を環境重点テーマとして取組む。また、1年に1回、環境関連内部監査を実施し見直しを行う。
 - ① 消費エネルギーの大半をしめる電力使用量を削減する。
 - ② 生産過程で用いる水資源については、使用量を削減するとともに、汚濁物質が外部に流出しないよう予防措置をとる。
 - ③ 生産過程で発生する残さいは、歩留まり向上により発生抑制するとともに、分別及び再生利用を行う。
 - ④ 化学物質については使用量を把握し、適正管理に努める。
 - ⑤ 商品の保管・物流に係るエネルギー使用量の把握を行い削減に取り組む。
 - ⑥ 容器包装は、簡易包装、軽量化により使用量を削減する。
 - ⑦ 紙資源使用量を削減する。
 - ⑧ 事務用品については、グリーン購入を積極的に行う。
 - ⑨ 冷蔵設備で用いる冷媒については、自然冷媒への変更を積極的に行う。
 - ⑩ 以上を取組むことにより、二酸化炭素の排出量を削減する。
4. この環境方針の達成のため、部・場所ごとに企業活動に根ざした行動目標を設定し、当社内の全部門の全従業員をあげて環境活動を推進する。
5. 水産資源をはじめとする生物資源を享受して事業活動を行っていることを自覚し、生物多様性への配慮及び資源の持続的な利用に努める。
6. この組織で働く、または組織のために働く全ての人およびその家族の環境意識を高め、全員で環境活動に取り組むとともに、地域・社会との協調をはかり、積極的な情報開示とコミュニケーションを行う。

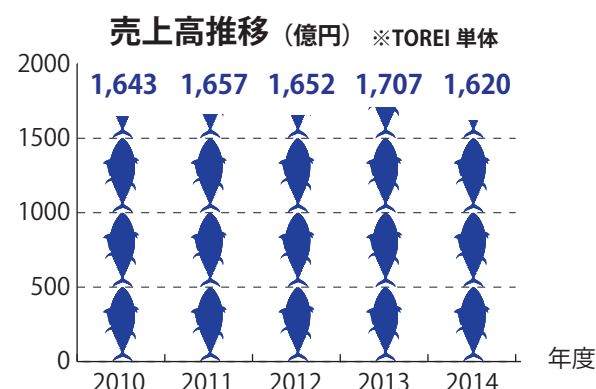
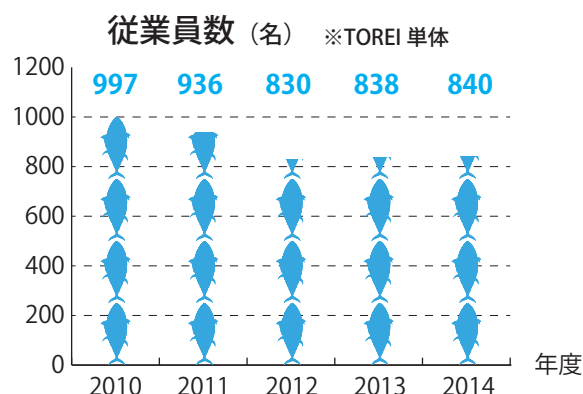
2015年4月1日
東洋冷蔵株式会社 代表取締役社長

川上 泰弘

世界の海と日本の食卓をむすぶ。

商号	東洋冷蔵株式会社
代表者	代表取締役社長 川上泰弘
本社所在地	東京都江東区永代二丁目 37 番 28 号 澁澤シティプレイス永代 2 階
設立	昭和 23 年 10 月 (昭和 46 年改組)
資本金	2 億 2,128 万円
売上高	1,620 億円 (2014 年度)
従業員数	840 名 (TOREI 単体 / 2015 年 4 月現在)
事業内容	水産物・農産物・畜産物・酪農製品・ 飼料及び化成品の仕入れ、販売並び に開発、加工・製造、保管、物流

環境管理責任者 代表取締役常務執行役員 中須 勝之



取扱主要製品

グローバル・サステナブルな水産資源調達。

担当部署

マグロ

遠洋延縄船により漁獲された天然冷凍マグロ、地中海沿岸諸国・オーストラリア等の養殖マグロや国内関係会社による国産養殖マグロ等を取扱い。養殖マグロは、活け込み・給餌・取り上げまでを管理。高品位マグロを『TUNA QUEEN』としてブランディング。

営業第 1 部・営業第 3 部



副産物の活用 開発部

未利用部位の有効活用として、コラーゲン・魚油・フィッシュミール等を開発・製造。



カツオ

営業第 2 部



一本釣りカツオ船等から買い付け、協力工場・自社工場加工。

エビ

営業第 4 部



天然エビのほか、タイ・ベトナムの提携企業からの養殖エビ調達。

サケ

営業第 6 部



養殖サーモンを主体として取扱い。海外養殖事業へのグループとしての参入。

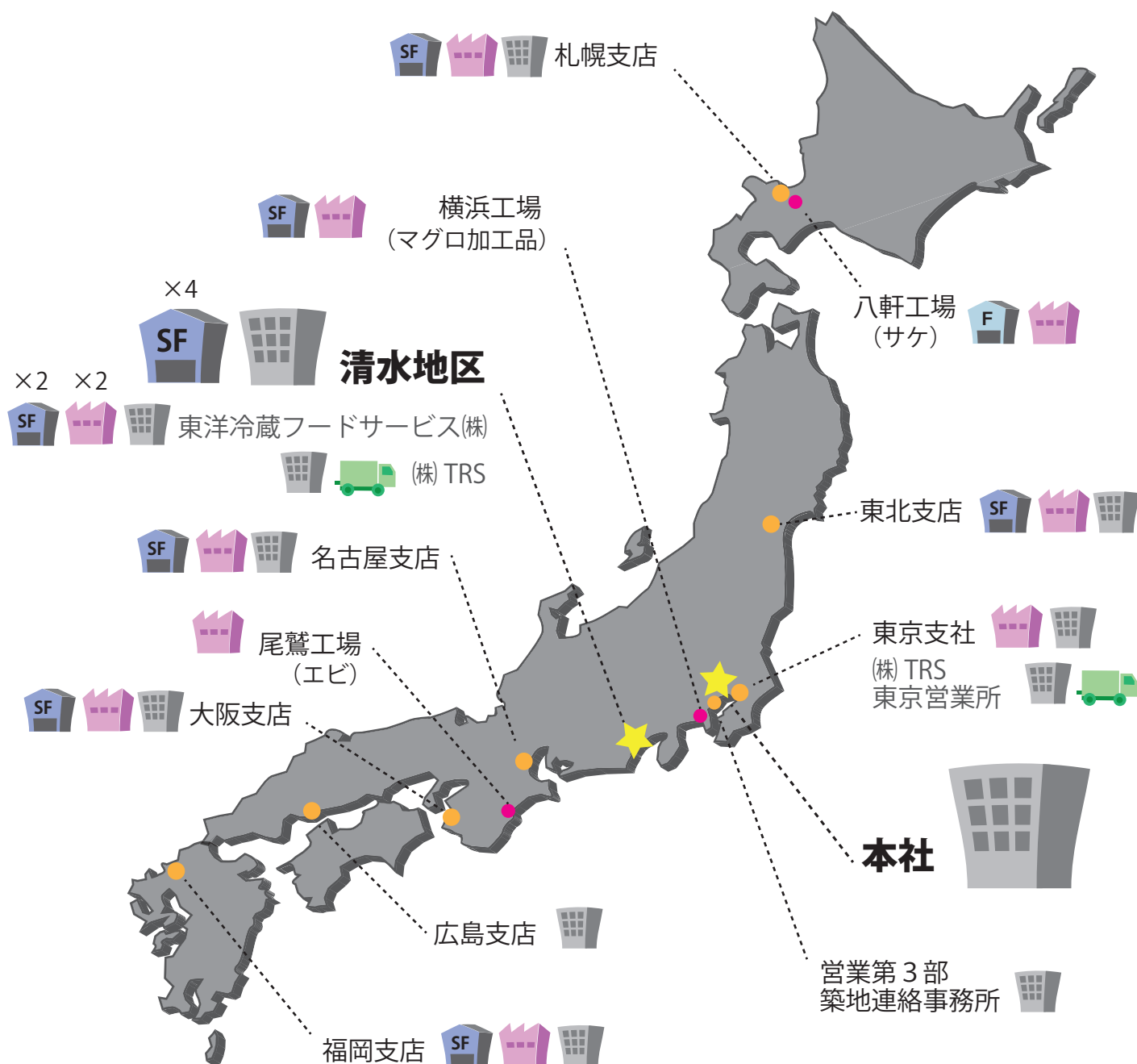
その他

営業第 5 部



さば・カニ・タコ・ホタテ・イカ等、様々な輸入・国産水産物の取扱い。

全組織での環境活動の取組。グループ企業への展開。



本社部署

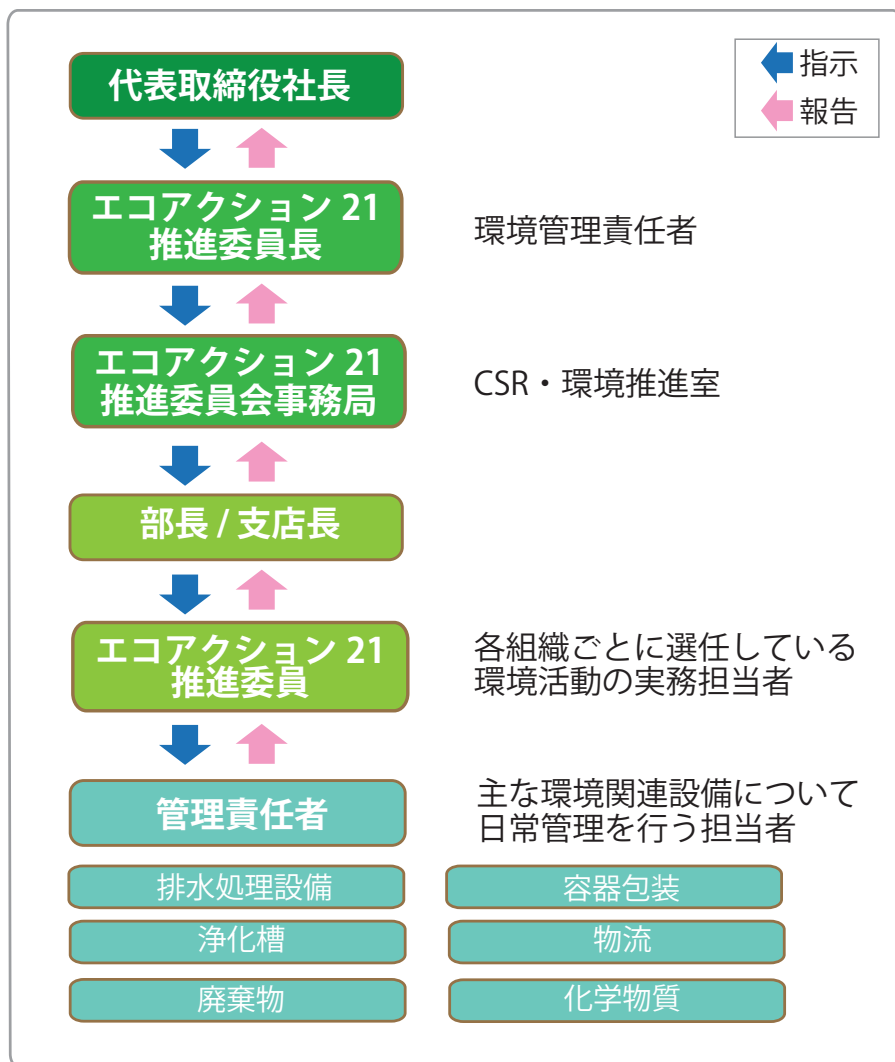
営業第 3 部	社長室
営業第 4 部	CSR・環境推進室
営業第 5 部	品質管理部
営業第 6 部	総務人事部
CVS 惣菜販売部	経理部
開発部	監査室
増養殖事業部	情報システム部

清水地区部署

営業第 1 部
営業第 2 部
カジキ商品部
静岡支店
総務人事部 (清水総務課)
冷蔵部

環境マネジメント推進体制

全組織を対象とした環境活動推進体制を構築しています。



Plan

取組対象組織・活動の明確化
環境方針・目標・計画の策定
環境負荷の把握
環境関連法規等の取りまとめ

Do

体制の整備・構築
必要な取組の実施及び運用
マニュアル・記録・文書等の
作成・管理

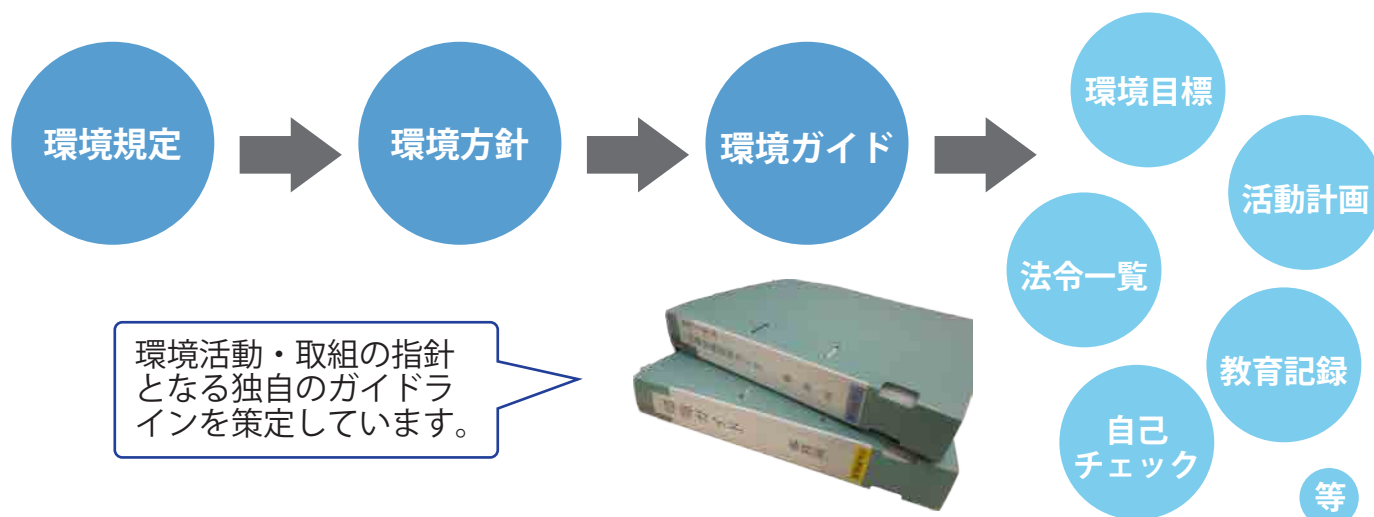
Check

システムの運用・目標達成状況の把握・評価
取組の確認・問題の是正

Action

全体の評価と見直し
Plan へのフィードバック

環境規定・環境方針に基づき、環境活動に係る文書を策定しています。



INPUT

TOREI 単体

グループ全体

水資源

上水	150,542 m ³	上水	166,574 m ³
井水・工業用水	88,004 m ³	井水・工業用水	153,143 m ³

紙資源

コピー用紙	30 t	コピー用紙	35 t
連続用紙・帳票類	12 t	連続用紙・帳票類	12 t

エネルギー

合計	6,223 kl	9,925 kl
電力	23,699 千 kWh	30,610 千 kWh
ガソリン	90 kl	93 kl
LPG	27 千 m ³	30 千 m ³
都市ガス	90 千 m ³	90 千 m ³
重油	40 kl	40 kl
軽油	6 kl	2,083 kl
灯油	30 kl	31 kl

（※エネルギー使用量合計＝原油 kl 換算値）

OUTPUT

TOREI 単体

グループ全体

水系への排出

公共用水域	49,768 m ³	公共用水域	102,966 m ³
下水道域	147,344 m ³	下水道域	147,344 m ³

廃棄物

一般廃棄物	485 t	一般廃棄物	508 t
産業廃棄物	1,007 t	産業廃棄物	1,628 t
食品廃棄物等	5,951 t	食品廃棄物等	10,742 t

清水地区及び北九州冷蔵庫にて保管していた低濃度 PCB 廃棄物（コンデンサ等）を法令に則り、廃棄しました。

大気への排出

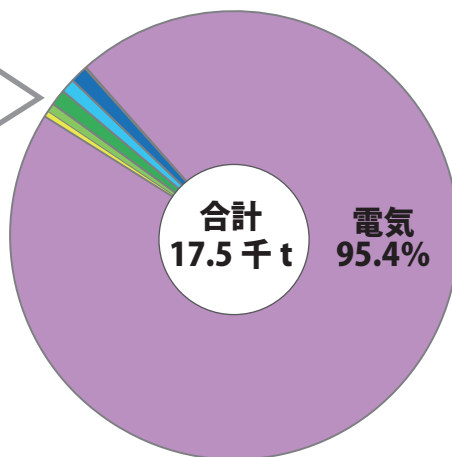
CO₂

二酸化炭素

< 2014 年度使用エネルギー別 CO₂ 排出割合 >

（物流に係る CO₂ 排出量除く）

ガソリン 1.2%
LPG 1.0%
都市ガス 1.2%
重油 0.6%
軽油 0.1%
灯油 0.4%



※電力 CO₂：2013 年度電気事業者別実排出係数使用

※ 参考；2013 年度電気事業者別実排出係数

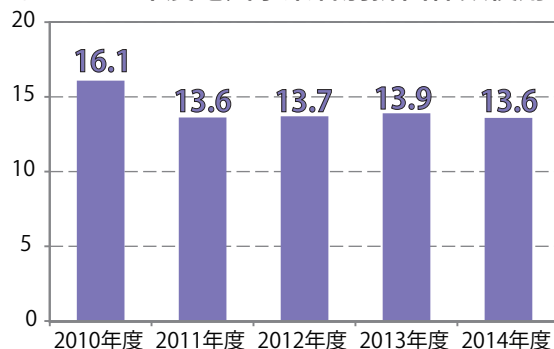
北海道電力	0.678	中部電力	0.513	中国電力	0.719
東北電力	0.591	関西電力	0.522	九州電力	0.613
東京電力	0.530				

< 電力 CO₂ 排出量推移 >

各年度電気事業者別排出係数使用



2009 年度電気事業者別排出係数使用



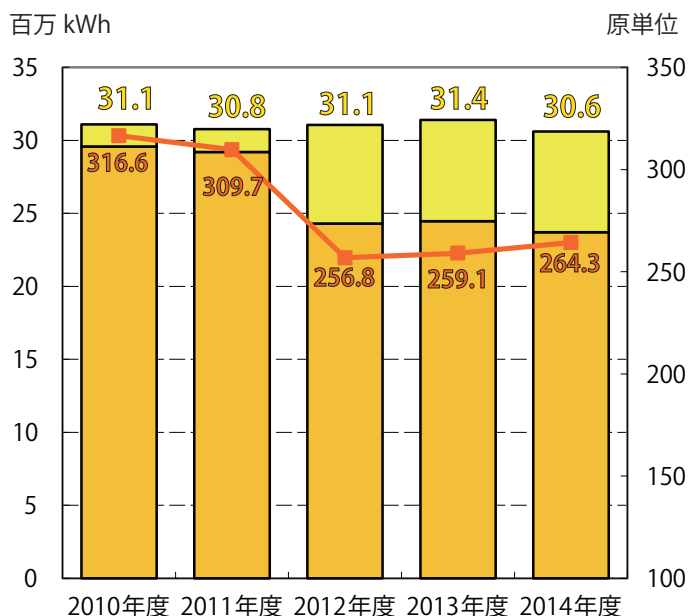
環境負荷の実績（経年変化）

期間：2010年度～2014年度

（※原単位：分母を事業所の事業内容に応じて、生産数量・公称トン・面積で設定。エネルギー使用効率を把握するための指標）

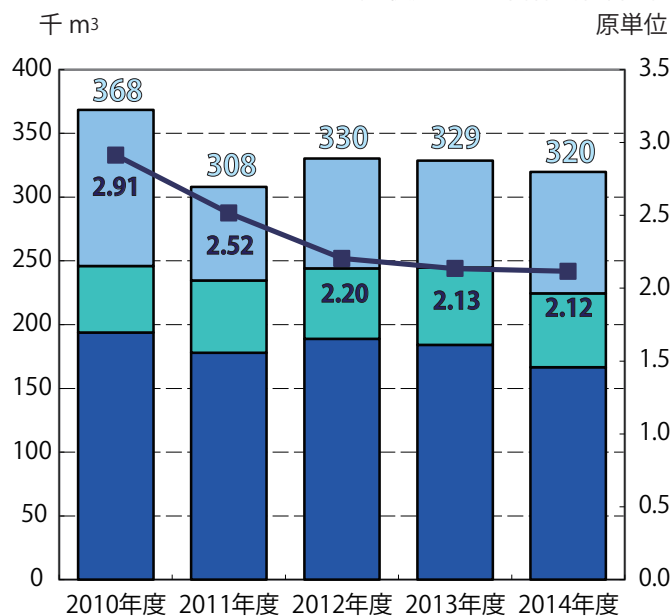


電気使用量



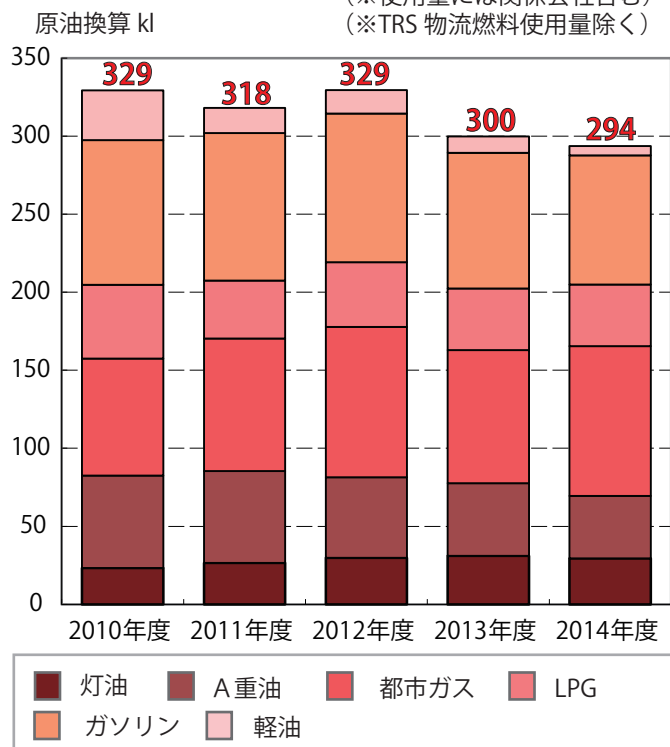
水資源使用量

（※使用量には関係会社含む）



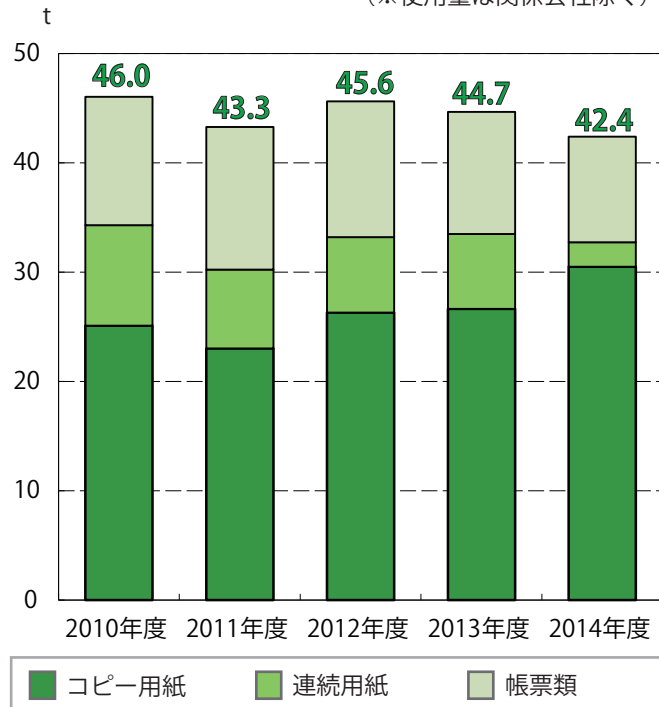
化石燃料使用量

（※使用量には関係会社含む）
（※TRS 物流燃料使用量除く）



紙資源使用量

（※使用量は関係会社除く）



代表者からのフィードバックに基づく、全社的な活動計画。

2013 年度活動結果をうけての指示事項 ＜2014 年度活動における活動計画＞

生物資源を直接取り扱う事業者として、水産資源の持続的な利用を更に推進し、積極的に取り組む姿勢を明確化するため、環境方針に「生物多様性への配慮」及び「持続的な利用」についての方針を追加する。

食品廃棄物発生量について、中長期及び単年度の目標達成状況を確認する。歩留り管理と併せて、全体としての発生抑制の為の取組を推進する。

電力量計で計測したデータを事業所ごとに分析し、実施した対策の効果検証に役立てるよう、事務局から指導・教育を行う。

事務所から排出される不要物（廃棄物・有価物等）について、排出後の種類ごとに一覧を作成し、「見える化」を行う。

営業本部における商品廃棄の実態について聞き取り調査を行い、各部署における取組を環境目標に組み込むよう指導する。

環境活動レポートの記載順序をエコアクション 21 の活動フロー（PDCA）サイクルと一致させ、年間を通じての活動フローが分かりやすくするように工夫する。

環境関連法令の改正内容をガイド規程に反映させるべく、ガイド規程の見直し及び必要に応じて改定を実施する。

2014 年度活動の実施結果

2014 年度策定の環境方針より追加しました。



全社目標値として、単年度・中長期の目標を 2014 年度より設定。歩留りの数値管理のほか、食品廃棄物発生量を毎月把握し、目標達成状況を確認しています。



内部監査時に指示・確認も、多くの事業所で具体的な活動に結び付けるまでには至りませんでした。



2014 年度中に確認ができませんでした。2015 年度の継続課題とします。



内部監査時に実態の聞き取り調査を行いました。2015 年度の目標策定時に個別に指導しました。



「環境活動レポート 2014」から対応しています。



2014 年度にガイドの改定を行いました。2015 年度の活動開始時の策定資料も法改正に合わせて修正しました。



活動単位となる部署別の行動目標・目標達成のための活動計画。

- ◆ 社有車のハイブリッド車等の低燃費車の導入推進（リース満了に伴う入れ替え時に検討）
- ◆ 両面・縮小印刷の励行。不必要なコピーの禁止徹底。社内回覧・連絡のメール活用。
- ◆ ゴミの水切り等、軽量化と加工時のロス削減（歩留り向上）による食品廃棄物の削減。
- ◆ 業務の効率化によりノー残業デーを徹底。照明・OA 機器・エアコン等の消費電力を削減。
- ◆ 冷蔵庫作業集約による開閉回数削減。こまめな庫内の霜取り実施による冷却効率の維持向上。
- ◆ チルド製品の解凍方法。清掃方法の見直し（高圧洗浄機の活用）。食堂・給湯室・トイレでの節水。
- ◆ 事業所周辺環境の整備。地域清掃活動への参加。事業所内における活動周知機会の設定。 他

工場及び関連設備における取組

水使用量・廃棄物排出量の負荷が大きい工場及び関連設備における取組。

ユニフォーム等のリサイクル



使用できなくなった、加工場や物流エリアで着用しているユニフォームや安全靴等は、納入業者が回収し、マテリアルリサイクルとサーマルリサイクルにより 100% 再資源化・再利用する『ゼロ・エミッションシステム』を活用しています。

2014 年度実績 47 箱



ゴミの分別

ゴミ箱に捨てるものを写真で表示し、分別方法で迷わず適切に分別廃棄できるよう工夫しています。



3 R 推進

半製品（加工過程の製品）の加工場内の一時保管等に通い箱を活用しています。



節水



清掃用のホースには手元ノズルを設置し、手元で開閉が出来るようにしています。元栓まで戻って閉める手間がなくなり、作業効率向上にも寄与しています。



手洗い場の水道は一部を除いて自動センサーを設置しています。衛生面の向上と一石二鳥です。

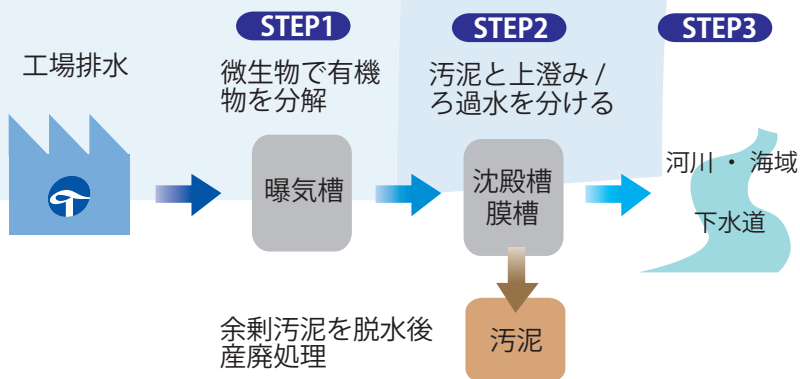


排水負荷低減

衛生的な環境で商品を製造するため、TOREI の加工場では、加工工程や工場内の洗浄に多量の水を使用しています。工場排水は、必要に応じ排水処理設備を設け、有機物（魚の血やカスなど）を微生物によって分解し、排水基準値を遵守するレベルまで水質を改善したうえで、排出しています。また、処理設備の運転・管理は、事業所ごとに管理責任者を選任して適切に行っています。

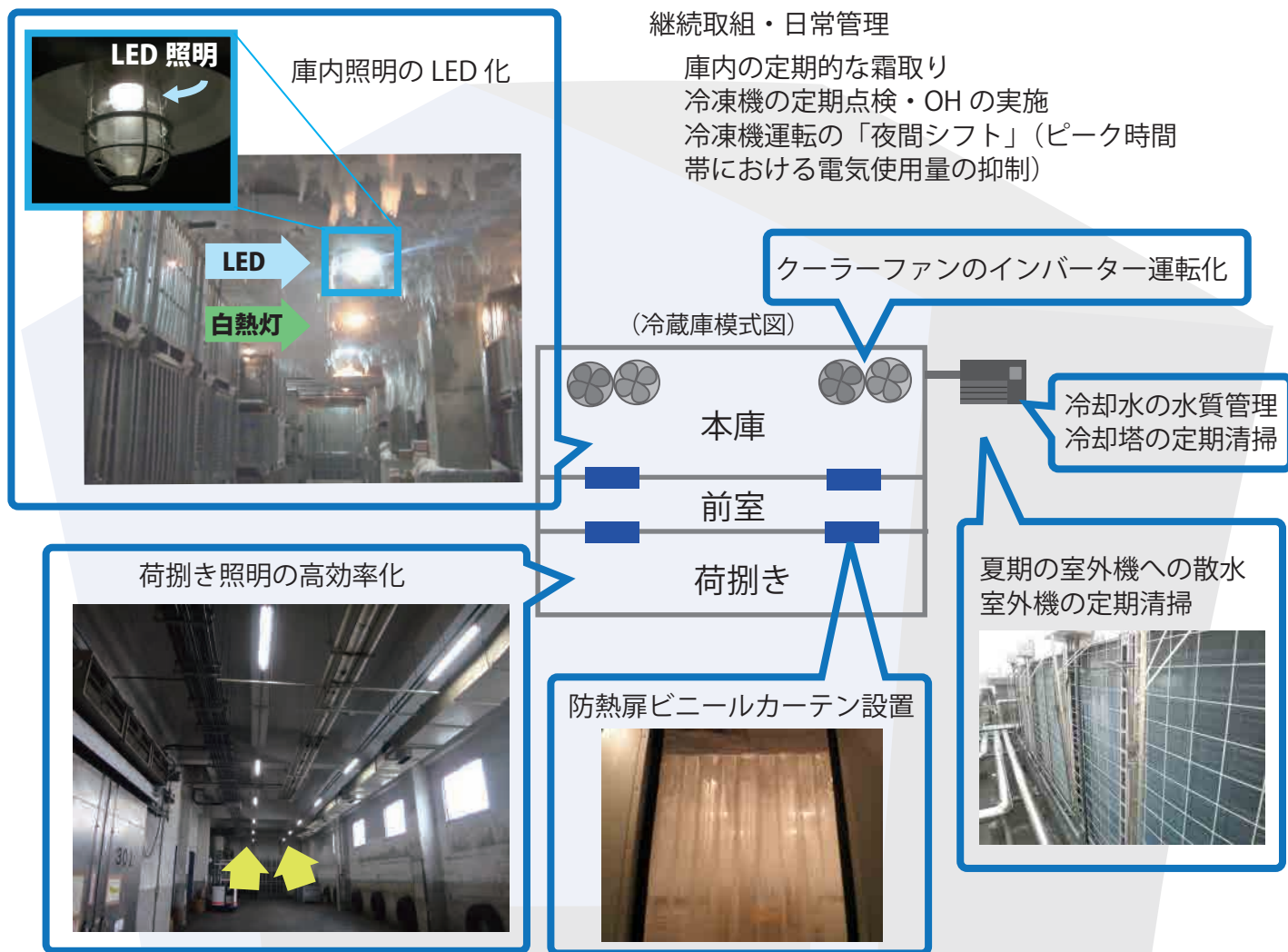


TOREI の代表的な排水処理設備・概要



環境負荷の大部分を占める冷凍冷蔵設備における環境負荷低減の取組。

エネルギー使用量の約 95% を占める電力使用量のうち、もっとも大きな負荷となっているのが冷凍マグロの品質保持を目的とした超低温冷蔵庫（-50℃以下）です。TOREI では、環境活動の重要課題として、超低温冷蔵庫の運用改善・設備の省エネ化推進・保守管理に取り組んでいます。



中長期目標：超低温冷蔵庫の自然冷媒冷凍機への転換



TOREI の超低温冷蔵庫の冷凍機には、フロンが使用されています。

加工に使用する凍結用の機械や加工場内の空調にもフロンは使用されており、フロン含有機器は、事業継続上、不可欠な設備です。

フロン（CFC/HCFC）はオゾン層破壊物質として、代替フロン（HFC）は地球温暖化物質として、環境負荷が非常に高い物質です。代替フロンの地球温暖化係数はCO₂の数千～数万倍にもなります。超低温冷蔵庫については、フロン冷凍機からアンモニアと代替フロン（R23）の二元冷凍機への転換を行ってきましたが、-50℃以下という特殊な温度帯を実現できる自然冷媒冷凍機が少なく、100% 自然冷媒を使用している冷凍機は、これまで導入の実現に至っていませんでした。

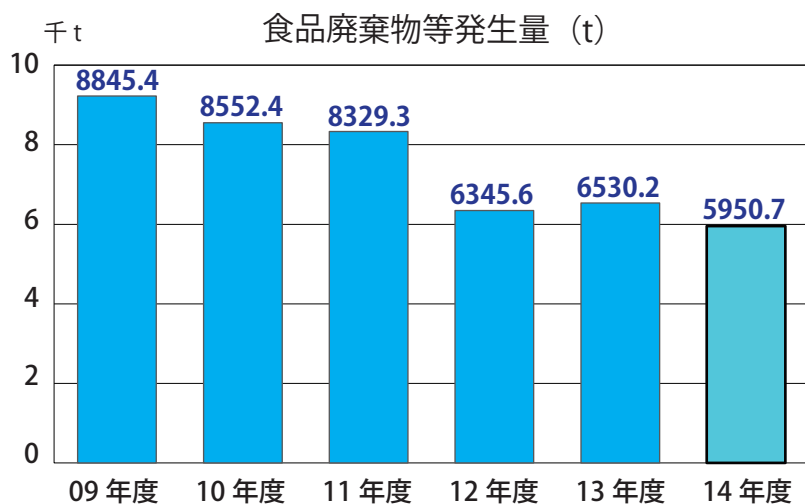
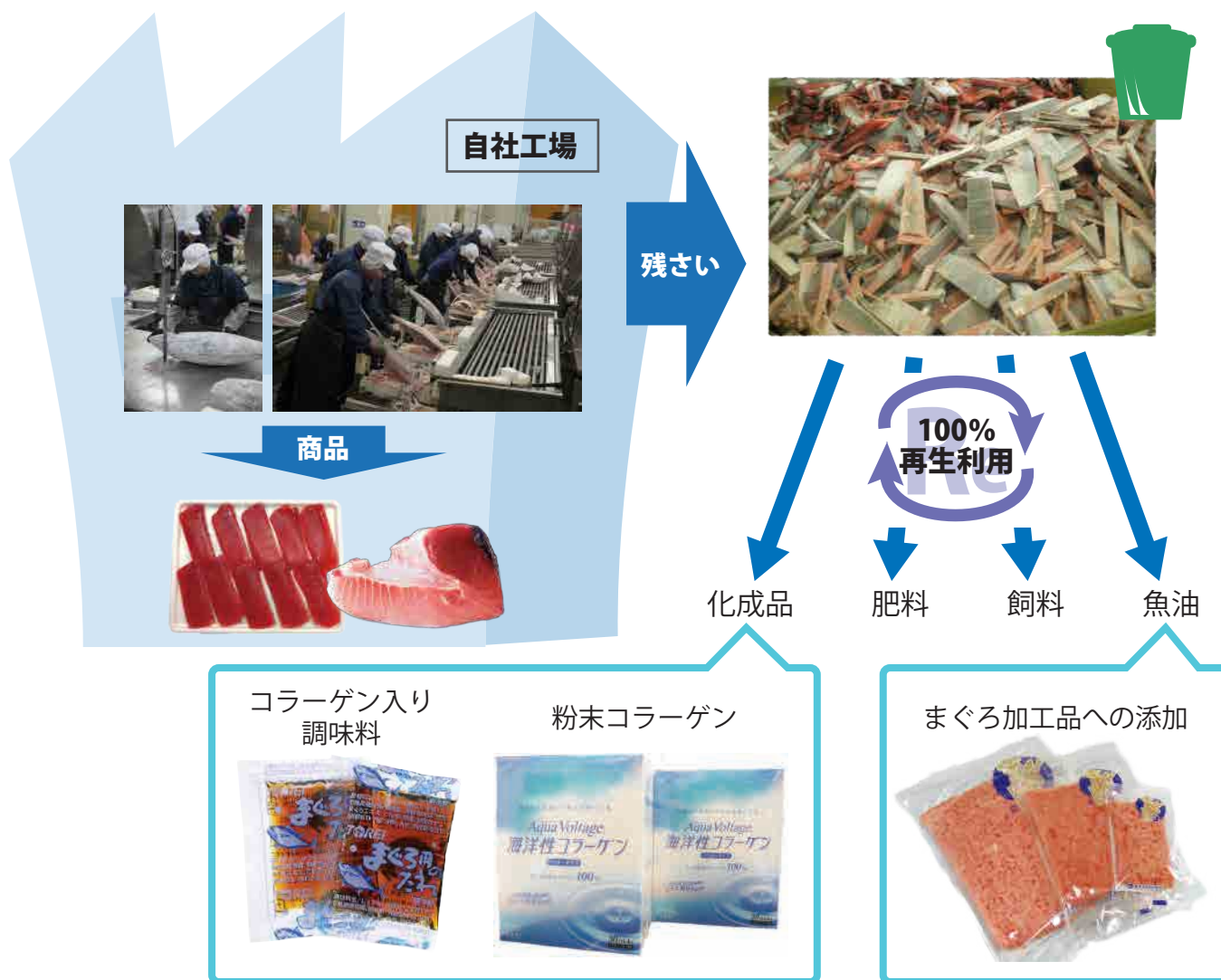
近年、空気やアンモニア・CO₂といった自然冷媒を使用した冷凍機が開発されてきていることから、今後は、自然冷媒冷凍機への転換を推進していきたいと考えています。

食品リサイクルの取組

食品廃棄物の再生利用と排出抑制を推進しています。

TOREI は、食品関連事業者として、工場における歩留まり向上や鮪副産物の有効活用などの食品廃棄物発生抑制を行うと共に、発生した食品廃棄物の再生利用・有効活用に取り組んでいます。

自社工場で発生した残さいについては、100% 再生利用しており、コラーゲンは自社製品としても販売。精製後の魚油の一部は、自社のまぐろ加工品に添加して活用しています。



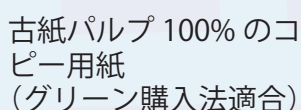
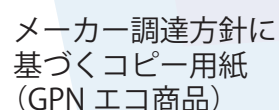
TOREI は、年間の食品廃棄物等発生量が 100 t 以上の「多量排出事業者」として、前年度の食品廃棄物等の発生状況や再生利用の状況について、行政あての定期報告を適切に行っています。

2014 年度
再生利用等実施率 **99.4%**

化成品への再生利用は食品リサイクル法の定義上、実施率に含まれていません。また、流通过程で生じた食品廃棄物の多くは焼却処理となる為、実施率が 100%とはなっていません。今後は、再生利用率だけでなく、発生抑制の取組も推進していきます。

事務所・物流等、事業活動を通じた環境負荷低減の取組。

本社コピー用紙の切り替え



モノクロ印刷用のコピー用紙を古紙パルプ 100%に切り替えました。紙の白色度は 87%→68%と低下しましたが、事務所で大量に消費するコピー用紙の切り替えを行うことで、3R の意識向上につながっています。



エコドライブ&アイドリングストップの啓蒙

社有車（営業車）はリース車両ですが、使用用途に応じたハイブリッドカーや低燃費エコカーを優先的に選定しています。



社有車用揭示物

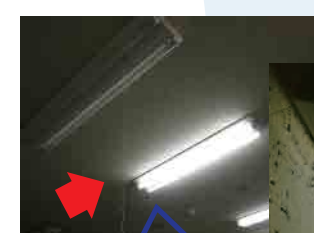
超低温冷凍車の取組

社有車と同じ表示を事業所内のトラックヤードにも掲示し、関係会社に限らず、事業所内に入出入りする全てのドライバーに対し、対応を周知しています。

関係会社の TRS では、荷主である TOREI と協働で物流における CO₂ 削減や NO_x・PM 法の順守に取り組んでいます。



事務所での取組



照明の個別スイッチの設置。



廊下・トイレ照明へ
の人感センサー設置。



空調抑制のための扇風機・サーキュレーター活用。



事務用品のリユース。
(リサイクルBOX設置)

各事業所における主な地域活動

清水事務棟	港湾地区清掃活動（月１回）
大阪支店	地域清掃活動　くりーんぐりーん作戦（年２回）
札幌支店	地域清掃活動クリーン・デイ（月１回）
名古屋支店	港湾地区清掃活動（年２回）
東北支店	屋外の草刈り・側溝清掃

その他の取組・・・

- 昼休み時間の業務エリア消灯
- 廊下・不使用エリアの消灯
- 事務用品購入前のグリーン適合確認
- 詰め替え式事務用品の優先的購入 等

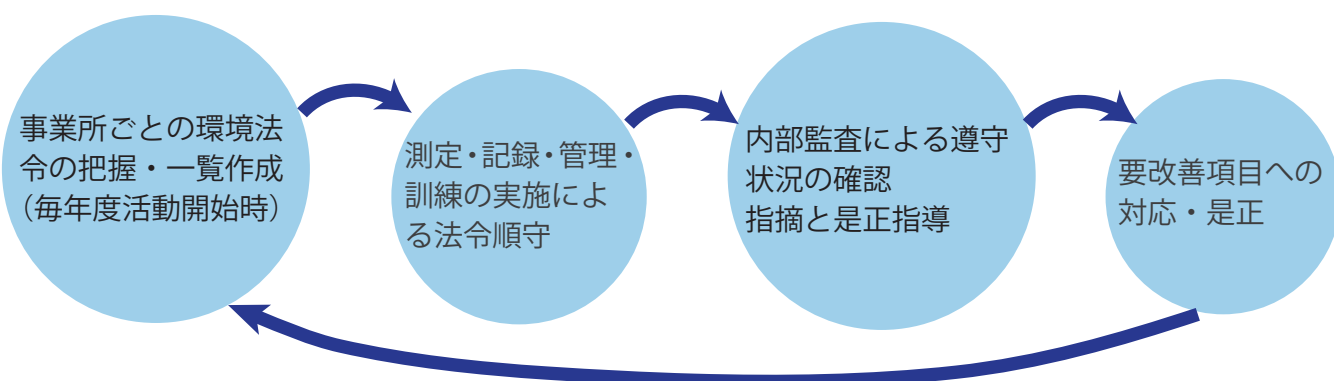


環境関連法令の順守状況の確認及び評価の結果

環境関連法令の一覧を作成して事業所ごとに把握し、遵守しています。

＜遵守状況を確認している主な環境関連法令＞

水質汚濁防止法	騒音規制法	容器包装リサイクル	PCB 特別措置法
下水道法	振動規制法	食品リサイクル法	毒劇法
浄化槽法	悪臭防止法	家電リサイクル法	電気事業法
大気汚染防止法	省エネルギー法	高圧ガス保安法	グリーン購入法
廃棄物処理法	地球温暖化対策法	フロン排出抑制法	立地自治体条例



環境関連法令の遵守評価

2014 年度は、排水関連で自主検査による基準値違反（1 件）・未処理水の流出（1 件）がありました。いずれも、自主的に行政あて報告を実施。ただちに是正処理を施し、改善確認をしています。関係当局からの違反等の指摘及び近隣からの環境に係る苦情等の報告は、ありませんでした。

緊急事態対応

天災や緊急事態を想定したマニュアルを整備し、必要に応じて定期的な訓練を実施しています。

事業所ごとに想定している環境事故発生時の対応マニュアルを策定し、関係従業員による年 1 回以上の訓練を実施しています。また、排水処理設備、冷凍設備に起因する環境事故の予防として、各管理責任者のもと、日常点検・定期検査・機器交換などの日常的なメンテナンス管理が行われています。

▼ 油漏洩時処理キット



▼ 保護具着用訓練



災害への備え

自然災害（地震等）を想定し、不測の事態となった場合でも迅速な対応ができるよう、体制整備を進め、従業員への教育・周知を行っています。

- 沿岸域立地事業所における津波を想定した避難訓練の実施
- 全従業員を対象とした安否確認サービスの運用及び定期訓練の実施
- 全事業所への防災備蓄品（3 日分の食料等）の配備 等

▼ 持出用非常用袋



環境教育や内部コミュニケーションを図り、全社員を対象とした活動を推進しています。

雇い入れ時の教育の実施

従業員の雇い入れ時には、労働安全衛生や会社の諸規定等に係る教育を実施しています。環境活動についても、雇い入れ時教育の一環として、会社の取組を理解してもらうための資料を作成し、説明を実施しています。

安全衛生委員会

各事業所で毎月1回定期的に「安全衛生委員会」を開催し、労働安全衛生に係る事項のほか、環境負荷実績及び環境活動の実施状況について報告を行っています。環境負荷の変動理由や活動の状況を事業所ごとに定期的に確認し、評価しています。

コンプライアンス浸透度調査

コンプライアンス要綱をはじめとする社内規程・会社方針への理解や浸透度の確認と、従業員からのコンプライアンスに係る会社への要望・問題点について幅広く提案してもらうことを目的に、年1回匿名での調査を実施しています。

環境活動を含めたコンプライアンス体制全体の運用や課題について、従業員の率直な意見を直接経営層が把握できる機会になっています。



外部コミュニケーションとしての事業内容・環境への取組の紹介。

TOREIの事業内容や環境への取組等に関し、理解を深めてもらうため、地元静岡市の学校をはじめとして、毎年度、小学校の「社会科見学」の受け入れをしています。



冷蔵庫の仕組み・庫内での注意事項や危険性の説明



超低温冷蔵庫を体感



タオルが固まってバットみたい！

小学生からの感想

冷蔵庫の中はとても寒く、タオルが凍って立つようになり驚きました。中に入っているマグロの気持ち分かりました。

2015.07.01
庵原小学校



質問タイム



なぜマグロの頭に穴が空いているかというと・・・

冷凍マグロの説明

中長期目標の達成状況

2009 年度を基準年とし、中長期の削減目標を策定しています。

2010 年度から、それまでの総量での削減目標に加え、事業活動の活発化によるエネルギー増加分を考慮し、『効率的なエネルギー使用』という視点で、生産数量や面積あたりのエネルギー使用量＝「原単位」の削減目標を策定しました。これを契機に、2016 年度での達成を目標として、2009 年度比の中長期環境目標を 2011 年度に策定しました。



※ 総量目標値は関係会社含む。原単位あたりの目標値は TOREI 単体。※ CO₂ 排出量は各年度の電気事業者別排出係数を使用。
 ※ 食品廃棄物等発生量は、14 年度より策定の中長期目標のため、基準年を 13 年度とする。

代表者による全体評価と見直しの結果・今後の活動方針

毎年度末に評価と見直しを行い、次年度の活動計画を定めています。

2014 年度活動結果をうけての指示事項 <2015 年度活動における全社活動計画>

- 紙資源は総量削減目標を達成した為、2015 年度全社環境目標を上方修正する。その他の項目については、2014 年度と同様の数値目標とする。また、日常的な活動を継続推進することを目指し、毎月の実績評価による達成状況を確認する。
- 事業所から排出される不要物（廃棄物等）について、種類ごとに委託先・処理フロー等の再確認を実施。一覧作成等による「見える化」を行う。
- 周辺住民等からの苦情の受付に監視、環境事故としての報告を社内ガイドで規定も、2015 年度上期に再度関係者あて通知の配信により周知・徹底する。
- フロン法の改正に伴う社内体制を整備し、環境ガイドの改定を行う。記録等、管理者としての責務を適切に履行する。
- 環境負荷・コスト実績の情報発信、共有体制を見直し、データ集計システムの活用の為の必要な改修を検討する。環境データの保存・管理方法について、運用ルールを定め、過年度分データを適切に管理する。
- 事務局となる CSR・環境推進室員や各事業所の設備管理担当者の知識向上の為の取組（外部講習受講等）を検討する。また、各事業所の設備担当者の複数名体制での管理を推進するよう指導する。

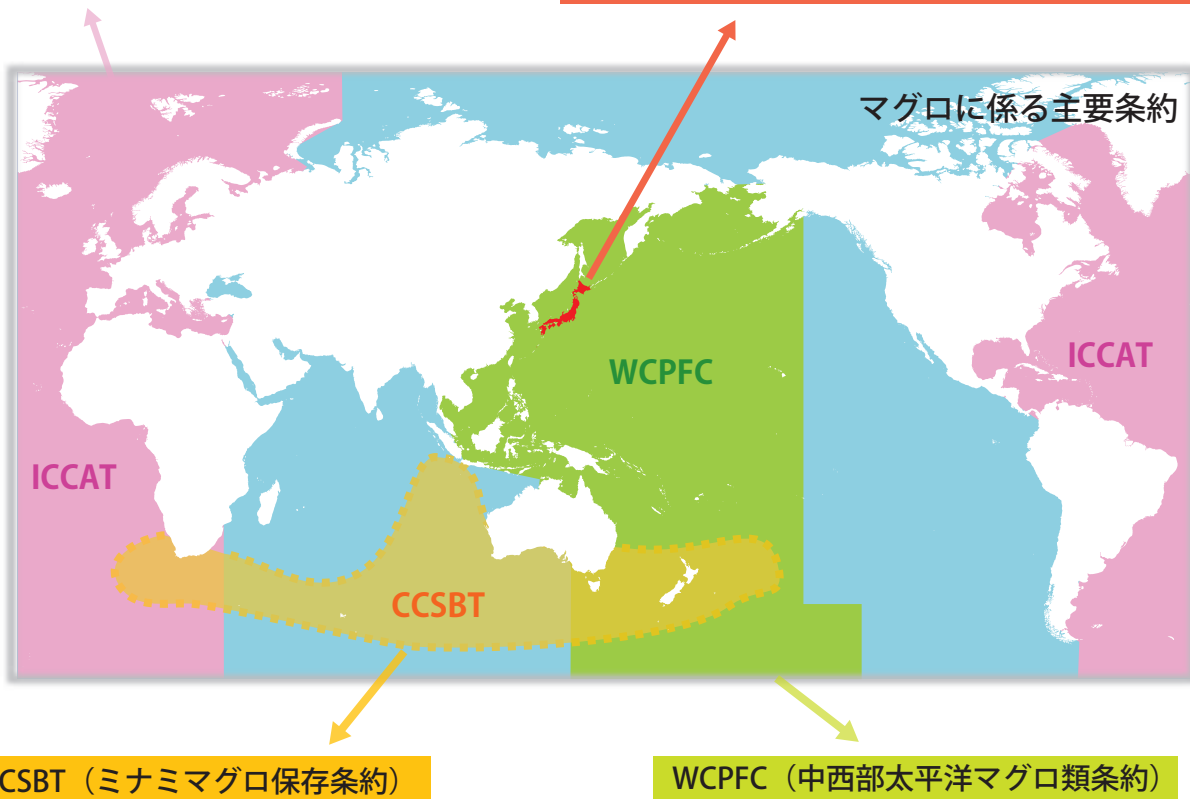
資源の持続的利用への取組

国際条約で定められた漁獲枠を遵守し、天然資源を保全します。

TOREI の主要取扱品目であるマグロ類は、国際条約で各国にそれぞれの漁獲数量が割り当てられています。私たちはこの枠を遵守し、水産資源の持続可能な利用に取り組んでいます。

ICCAT (大西洋マグロ類保存国際条約)

マグロ法 (マグロ資源の保存及び管理の強化に関する特別措置法)



天然資源に頼らない人工ふ化養殖まぐろの取組強化により、水産資源の持続可能な利用を目指します。

クロマグロは近年、資源の枯渇が国際的に懸念されており、稚魚の漁獲についても規制が強化されるなか、資源を確保し、安定的な供給を実現させていくためには、天然稚魚に頼らず、養殖魚から採卵した卵を人工的に孵化させ、成魚まで育成させるという手法の実現が期待され、実用化に向けた研究がすすめられてきました。

TOREI では、関係会社 2 社における国内でのクロマグロ養殖事業で、人口ふ化養殖の取組を行っており、「TUNA PRINCESS」というブランドで、出荷を開始しています。今後も水産資源の恵みを楽しんでいる企業として、生物多様性の維持及び資源の持続可能な利用を目指し、取組を推進していきます。

TUNA PRINCESS



発行日 2015年9月

発行者 〒135-0034

東京都江東区永代二丁目37番28号 澁澤シティプレイス永代2階

東洋冷蔵株式会社

TORE | ホームページ <http://www.toyoreizo.com>



ご意見・お問い合わせは下記までご連絡ください

エコアクション21推進委員会事務局（CSR・環境推進室）

TEL 03-5620-3200

FAX 03-5620-3300



®環境省

エコアクション21
認証番号 0001429